

ファイナル風

(現場)からの風

宮田守男

今日は「クリスマスイヴ」、里まで本格的な雪景色だ。半月ほど前からイルミネーションや飾りが街を飾り楽しい気分にかけてくれ

る。だが「クリスマス」「クリスマスイヴ」が何の日か答えられる日本人は少ないのではないだろうか。「クリスマス」はイエス・キリストの誕生日ではなく、キリストの降誕を祝う日。イエス・キリストは「正義の味方」「世の光」と呼ばれていた事がお祝いをしている意味だとされている。

多くの国で、サンタがいないと考へ始めるのは8歳が最も多いとの調査結果だが、今宵届くプレゼントを心待ちしている子ども達も多いはずだ。日本で初めて福井市でクリスマスパーティーが行われ、少年らに足袋を吊るして飾りつけさせ、パーティーが終わり寝静まった時、角砂糖やドロップ、小銭などをに入れて、早起きした少年が足袋の中を見て喜び、はしゃいだのが日本でのプレゼントの始

世界中のすべての子らにメリークリスマス

とママは、サンタには特別なパスポートがあるから、どの国にも自由に入れるんだよ。と答えました。でも子ども達はまた不安そうです。サンタさんはおひげがたくさんだから、マスク着けられない

よ。大丈夫かなあ。米国のニューヨーク・サン新聞で「この世界でいちばんたしかなくと、それは、子どもの目にも、おとなの目にも見えないものです。サンタクロースはちゃんといます」と、合理的な考えが広まる時代に、精神面の大切さを訴えた社説が今でも心に残る。コロナ禍で貧困・被災・難病・表情が曇りがちな子ども達にも、心温まる笑顔を届け続ける「あな

タ食時クリスマスケーキを楽しみにしている人たちは多いはずだ。「ブッシュ・ド・ノエル」は新の形をしたクリスマスケーキだ。原油価格の高騰を受けて、輸入される小麦や砂糖などの原材料が上

が、加えてハウス栽培の暖房費が増え楽しみにしているイチゴも値上がり、高いから今年にはケーキの代わりに「新た」とのオヤジギャグや「今年はケーキが少し小ぶりだ」の声が聞こえてきた。 (信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



今後の農業への会議。農業の困難な課題が心を曇らせる